

成員カテゴリー分析の視点で捉える「ファン」

——ファンの日常活動と会話から——

国立大学法人 埼玉大学 袁景竜

目的：

- ①. ジャニーズファンやプロレスファン、オタクなど各ジャンルの様々なファン、様々なファン現象を全体的に捉えられるカテゴリー化装置を構築する。従来のファン研究は各ジャンルで行い、オタクの物語消費やジャニーズファンの同担拒否、腐女子の関連消費など各自の現象に注目して研究されてきた。しかし、こうした一部のファンにある独特な現象に注目することによって、他のファンも類型化される恐れがある。つまり、氷山の一角のような、水面上に現れる部分だけを解明するのではなく、より全体的に捉える必要があると筆者が考えている。また、これまでの研究では、異なるファンの間にある類似性や共通性に対しても十分に重視していなかった。ファンやファンに巡る現象をより一層理解するため、ファンを全体的に捉えられるカテゴリー化装置を構築する必要がある。
- ②. こうした新たなカテゴリー化装置によって、ファンに巡る様々な問題を分析する。近年注目されたAKB商法やアイドル恋愛禁止という規範、アイドルに対してファンによる暴行などファンや芸能人に巡る社会的問題をはじめ、ファンのカテゴリー化装置を用いて分析してみる。

方法：文献調査と日常会話、インタビュー、語りなどの会話分析とフィールドワーク

筆者は東浩紀や東園子たちの文化消費論の研究、辻泉や陳怡禎たちの国内外におけるファン研究、武井協三や須川亜紀子たちの伝統から最新の文化研究など幅広い研究を参考にした。また、日常生活におけるファン同士の会話、テレビ番組でのアイドルに対するインタビュー、業界関係者やアナウンサーの語りなどのデータを分析した。さらに、フィールドワークとして、筆者自らが能楽や歌舞伎、アイドルコンサートなど様々な演劇を見学しに行った。そして、得られたデータに基づき、ファンの応援活動、ファンの情報収集、ファン同士のコミュニケーション、ファンの消費行為などの面から、各ジャンルのファンにおける類似性や共通性を考察した。

結果：

- ①. 筆者は各ジャンルのファンに対する考察から、H. サックスの成員カテゴリー理論に基づき、アイドルファン・アニメファン・サッカーファンなどのファンを「ファン」というカテゴリー、ファンが愛するアイドル・アニメ・チームや選手などを「ファンオブジェクト」というカテゴリーにまとめ、「ファン」と「ファンオブジェクト」という成員カテゴリー関係対を構築した。
- ②. このカテゴリー化装置を用いて、H. サックスが提示した「一貫性規則」と「経済性規則」というカテゴリーの適用規則に基づき、前述したアイドル恋愛禁止という規範の形成過程および原因などに対して成員カテゴリーの視点で分析した。

結論：

筆者は日常生活に立脚し、自らの経験と様々なファンの会話や行為を通して、異なるファンの間での類似性・共通性を見出し、「ファン」と「ファンオブジェクト」というカテゴリー化装置を構築した。このカテゴリー化装置によって、様々なファンにおける普遍性を全体的に理解することができた。また、こうしたカテゴリー化装置は単に問題を抽象化するだけでなく、抽象化することによって、「アイドル恋愛禁止の規範」など具体的な問題を分析できる新たなツールを与え、ファン研究に新たな視点を提示した。